

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500760		
法人名	有限会社錦秋会		
事業所名	グループホーム木かけ		
所在地	千葉県緑区土気町1500-1		
自己評価作成日	平成30年1月25日	評価結果市町村受理日	平成30年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成30年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者さんの意思(想い)を大切にしています。入居者さんはもちろんですが、ご家族さんにも「木かけで良かった」と感じて頂けるホームを目指しています。私達の理念は「笑う門には福来る」です。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>広い中庭は地域に解放されており、近所の子供たちが毎日のようにバドミントンをしたり駆け回ったりして遊んでいる。利用者も子供の遊びを眺めたり野草をつんだり、また畑となっている区画で芋ほりなどを楽しんでいる。近所の方がボランティアとして入り、話し相手や家事の手伝いを行うなど地域とのつながりが深い。看取りを実施しており、最期の時を医師の指示のもと、家族、利用者、職員が共に連携しながら、利用者が穏やかに過ごせるように支援しており、家族の安心につながっている。</p>

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念『笑う門には福来る』を、職員全員が見える場所(管理室)に貼り、共有・実践出来る様に努めている。	毎日楽しい生活が送れるようにと作った理念を意識して「笑い」を生活に取り入れ、笑うことで楽しい気分になれるよう、職員は意識して利用者の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域サロンや、近隣のお祭りへの参加、回覧板を入居者さんと一緒に回したりなどを行っている。	毎月の地域サロンや地域の農協祭りに参加している。また、大雪の時には職員が道路の除雪をして感謝されたこともある。協力医療機関が行う夏祭りには「木かげ」の席が用意されており、毎年参加をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域サロンへの参加の際、管理者が話やロールプレイにて地域の方に広めたり、二か月に一度新聞を作成し、近隣のお店などに貼って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は管理者が主に行っているが、ボランティアの方や民生委員さんにも参加していただき、サービス向上のための意見を伺っている。	運営推進会議での意見交換により、ボランティアが紹介され、傾聴、洗濯物たたみ、食事づくりなどに協力を得ることができた事例もあり、会議をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が主に行っている。	市役所や区役所の担当者とは、電話や訪問にて情報交換や相談などを行い、協力関係を築くようにしている。何かあればすぐに相談できる関係性がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関、大窓の施錠をしているが、日中は全て開錠している。身体拘束は原則的に行っていない。	身体拘束はしていない。職員には身体拘束に関する研修を実施しており、家族にはリスクについて説明をしている。また、利用者の状態に応じて本人や家族の同意を得たうえで、居室の入り口に鈴をつけるなど、安全面にも配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	お互いに声を掛け合い注意しあい、無意識にでも虐待にあたる行為が無い様に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実情として、あまり学ぶ機会は持っていない。切迫して必要としている(必要としても職員が制度に関わることがあまり無い)入居さんが現状あまり居ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に管理者により、十分に説明をさせて頂き、ご理解と納得をしていただいてから契約をしている。入居後も、疑問などがあれば随時ご説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱と、そこで出たご意見に対しての対応結果を提示している。また、ご家族さんとの連絡・報告は小まめに行い、ご意見を伺う機会を増やしている。	利用者の意見は日頃のコミュニケーションの中で聞き取り、家族の意見は面会時やメール、電話などで聞くようにしている。何かあればその都度検討し、対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議を行い、意見のまとめを行いつつ、日々の勤務の中でも管理者が話を聞く機会を設けている。	以前月1回開催していた業務会議は人員不足により不定期開催となったが、毎日のように管理者と職員の意見交換は行われている。中庭へのフェンスの設置や職員手当の支給方法など、職員の意見を反映して実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から代表者へ、職員個々の実績の報告を行っている。それを受け、代表者が環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者から代表者へ、職員一人ひとりのケアの力量について報告している。また、研修の機会についても、参加できそうなものがあれば管理室への提示を行い参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上述の研修参加時に個々の判断で交流をする程度で、機会としてはあまり多く持ててはいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人との面談を行い、また入居初期は特にこまめにご様子やお話を伺い、ご本人の不安に感じている事を聞く、或いは察していけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時にご本人の生活歴を記入して頂きつつ、初期においてはご家族さんへの連絡も密に行い、不安が軽減されるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居初期での他サービス利用はあまり考慮しない場合が多いが、ご本人やご家族の必要性に応じて、グループホームでは出来ないことに関しては他サービス使用の提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人と人として向き合い、出来る事は職員と共にしていただき、また、一人一人の思いを重視し、共に生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際は一緒にゆっくり過ごして頂ける様に環境を整えたり、入居者さんに何か変わった事があれば電話・メールなどで随時報告させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた際に、お話出来る様に環境を整える程度で、こちらからの働きかけはあまり出来ていない。	家族や友人との面会などは歓迎している。家族対応で馴染みの場所へ出かけることもある。入居後は次第に近隣が馴染みの場所となる事も多く、近くでの買い物やイベントなどには積極的に参加するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士の関係・相性などを考慮し、孤立せずトラブルにもならないように、職員が仲立ちしお話しして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どの方は終身利用のため、入院・死亡による退去となるケースが多くご本人に関してはその後のフォローが切れてしまうことが多い。退去後も遊びに来て下さったり、支援して下さるご家族さんもいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のご様子、お話の中から把握に努め、ご本人の意志表示が難しい場合は、ご家族の意見を伺いつつ方針を決定している。	日頃、コミュニケーションを取ったり様子を見る中から、時にはスキンシップを交えながら意向の把握に努めている。また、病院に行く時など職員と1対1で話せる時に気持ちを聞くように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にそれまでの生活歴をご家族さんに記載して頂き、合わせられる部分は合わせつつ、ご本人の生活リズムを尊重させて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	上述の生活歴よりの参照の他、日々過ごされる中でご様子を記録・共有し、その時の状態について把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新の際にはご本人・ご家族のご要望を伺い記載させて頂き、また、毎月手紙にてご本人のご様子をご家族さんにお伝えしている。ご意見に関しては聞く機会を多く作るようにしている。	介護計画は利用者や家族の意向を踏まえ、職員の意見を聞いて作成している。見直し時には事前に全職員に介護計画を渡して意見を聞き、次の計画につなげている。また、半年に1回、居室担当職員が中心にモニタリングを実施しており、レポートにまとめ家族にも報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子を個別記録に記入し、変化やケアの中で有効だったこと、逆に良くなかったことなど、伝えたい事は赤字で記入することで情報共有の強化に努めている。共有状況については未だ課題が残る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今、必要な事の把握に努め、柔軟に対応を切り替えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用出来ているのは(活動に支障のない)一部の入居者さんだけが、可能な方に関しては安全・安楽に地域との関わりを楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医か他のDrへの受診かを選択して頂いている。現在すべての入居者さんがかかりつけ医(武村内科医院)への定期受診を行っている。	ホームの協力医が月1回の往診で、利用者の健康管理をしており、緊急時にも往診してもらえる。内科以外の科については、職員と家族が付き添って受診している。また、歯科医も訪問している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師がいないため、受診時の報告、または訪問看護利用時には訪問看護師へ、日々のご様子を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、アセスメントシートを提出し、また日々の情報を伝え、ご本人の状態を共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期よりご家族さんとの話し合いを行い、また、必要性に応じて情報共有、説明を密に行いつつ、終末期における対応を決定している。	入居時に本人や家族に最後まで支援できることを伝えている。終末期に入った場合は、今後想定されることを伝え、家族の希望を聞いて書面にし確認している。	今後は重度化や終末期に向けての指針なども作成し、指針に基づき説明がされるとさらに良いと思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて共有に努めているが、定期的には行っていない。日々スタッフ間で話し合うに留まっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力のもと、定期的に避難訓練を実施している。	火災訓練は定期的実施している。また、地震の際の避難についても消防署のアドバイスを受けている。水や食料も備蓄し、近隣の住民や福祉施設とも協力し合える関係性がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての認識を忘れず、丁寧な言葉で話す方には丁寧に、砕けた言葉で話す方にはこちらも親しみやすく等、その方に合わせた話し方をしている。	名前は本人や家族の希望に沿った呼び方になっている。プライバシー保護については、居室に入る時の声かけ、入浴時やトイレ誘導の際の配慮など基本を大切にしている。また、写真掲載や病院への情報提供は、家族の同意を得るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が選択・決定できる事柄に関しては極力意思を伺い、自己決定して頂ける様に促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、ご本人のペースに合わせる様にしている。生命の危険がある場合は、スタッフの判断で調節させて頂く事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類など、ご自分で選べる方は選んで頂く様にしている。女性の入居者さんには、希望に応じてマニキュアを塗って頂く事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いができる一部の入居者さんのみだが、可能な時はお手伝いをして頂いている。その際必ずお礼を伝え、「自分ばかり…」という思いにならないように努めている。	食材と調理は専門の業者に依頼しているが、イベント時は内容を変更するなどしている。また、家族ボランティアがお寿司を握ってくれる機会を設けるなど、食事が楽しめるような工夫をしている。現在、職員は利用者と同じ食事はとっていない。	職員自らが食べることで分かる事もあると思われる。交代で検食するような仕組みも期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェック表を用いてスタッフ間の共有を行い、また口頭でも確認することで不足なく確保できるように努めている。必要に応じてトロミ・補助食品も使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの徹底、うがいが出来ない方は吸引歯ブラシを使用し口腔ケアを行っている。月一度訪問歯科を利用し、口腔内クリーニングをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄ペースの把握と、失敗を減らすことに努めているが未だ実践状況としては不足している。ご本人の状態に応じて、オムツから紙パンツへの変更など随時話し合っている。	日中はできる限り、トイレで排泄ができるように支援している。夜間はポータブルトイレやリハビリパンツなど一人ひとりの状況に応じて適切な対応をしている。入居時には不安定だった利用者が、状態が落ち着くにつれて自立に向かう例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージを小まめに行ったり、乳酸菌飲料・オリゴ糖などを摂って頂いている。運動に関しては不足がちで、強化していきたい項目である。緩下剤の使用も状態に応じ行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日可能だが、介助があまり必要でない方に関しては、ある程度好きな時間に入って頂ける様に促している。その他の方に関しては、職員の人数が手厚い日中のみの対応としている。	希望があれば毎日でも入浴が可能だが、週2~3回というのが平均である。入浴の時間帯もできるだけ希望に沿うようにしている。利用者は各自自分のシャンプーを使用している。また、入浴剤での温泉めぐりなども楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れなくなる程度に、日中ご希望に応じて休んで頂く事はある。その際寝てしまいきりになり体力低下しないように、ご様子を伺い起きて頂く事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルにてまとめ、いつでも確認できるようにしている。また、スタッフ同士でも確認しあい、状態の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買い物、レクリエーションなど、可能な方には参加して頂いている。また、生活歴を参照し、編み物など趣味にしていた方は続けて頂ける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援については、あまり多くの機会を作れていないのが現状である。(行けても中庭やコンビニへの散歩程度)初詣や花見など、イベント的な外出に行ける体力がある方に関しては参加して頂いている。	イベントとしての外出は定期的に企画している。個別に近隣のコンビニなどに出かけることもあり、ホームとしてできる限りの支援をしている。また、広い中庭でお茶を飲むなど外気に触れるようにしている。家族と一緒に夕食やお墓参りに出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失のリスクなどをご家族さんとお話した上で、お金を個人で持ち歩かれている方もいる。外出機会を多く作れていないため、使う機会に関しても同様に不足している現状ではある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から連絡を取る働きかけはあまり行っていない。現状は、電話が掛かってきた際にご本人と話ができる様に取り次ぐ程度である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの状態を把握し、不快に感じないように調節し居心地よく過ごせる様に支援している。季節感に関して細かい変化は付けられていないが、花を飾ったり、Xmasや七夕などの季節の行事を感じられる飾り付けはしている。	広い中庭を囲むように二つのユニットが配置されている。共用空間は清掃が行き届き清潔である。中庭は近所の子どもにも開放しており、ボール遊びをする様子なども見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方の居たい場所に座って頂きつつ、またご自身で移動できない方に関しては気の合う方、お互い不快に感じない方と共に過ごして頂けるように、場を調節している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までに使っていた馴染みの品物や、家具など持ち込めるものは持ち込んで頂き、引き続き使って頂ける様にしている。	一人ひとりが自分の好みで居心地のよい居室になるようにしている。使い慣れた家具を持ってきたり、表彰状を飾っている人もいる。また、畳を使用している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除、食器洗い・拭き、食材刻みなど、個々人の出来る事の把握に努め、それに応じて手伝って頂ける事は手伝って頂くようにしている。		